



「SOU・SOU」のグッズと若林さんの新刊を並べたフェア。特に女性客に好評という(紀伊国屋書店グランフロント大阪店)

本 よちうに読

▲ 関西館

本の価格は税抜きです

雑貨と本コラボ

ポップな和柄の地下足袋などを製造販売する京都のブランド「SOU・SOU(そうそう)」代表、若林剛之さん(45)が、伝統産業への思いをつづった「伝統の続きをデザインする」を出版した。版元の学芸出版社(京都市)は、ブランドの人気商品と本を並べ、読者の目を引くフェアを、全国各地の書店で展開中だ。

椿や菊柄のスマートフォンケース、波模様の足袋風靴下……。紀伊国屋書店グランフロント大阪店(大阪市)では今月中旬

から、若林さんの著書がSOU・SOUのグッズと展示されている。「ファッション中心の商業施設にある書店にぴったりのフェア」と店員の岸本マミさん(29)。雑貨に目を留め、それから本に手を伸ばす客もいるという。

地元では人気のブランドだが、全国的な知名度はまだ高くない、同出版社の編集者、中木保代さん(36)が商品と一緒にPRする作戦を仕掛けた。近年、雑貨なども売る複合書店が増えていることもあり、7都府県

17店で展開してきた。

SOU・SOUは2003年の設立。偶然手にした地下足袋を「世界に類をみないデザイン」と直感した若林さんがおしゃれなプリントで作ったところ、国内外でヒット、ユニクロやワコールなど、大手との商品開発も手がけた。

著書では、海外ファッション好きだった若林さんが、伝統産業の職人らと出会い、ブランドを構築するまでの歩みを書く。「伝統産業もデザイン次第で復興しうる。その可能性を、グッズや本を通じて知ってもらえたら」と、若林さんは話している。

(木須井麻子)